昭和33年5月15日　第3種郵便物認可　昭和54年10月15日発行（10月号）通巻第320号　毎月1回15日発行

新潟県公民館月報

昭和54年10月号

発行所　新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2—9・県林業会館内】
【電話・新潟（0252）24—6073】【振替新潟4094】
発行人　会長　石井耕一
編集人　事務局長　本田　清
【定価1部　70円　年共・年極　840円】

弥彦のぶどう山

子供の頃、たしかに来たことのある雑木林、わらびをとり、はしゃぎまわったあの雑木林はたしかこの辺であるはずなのだが……。そう思いつつ記憶をたどろうとするがはっきりしてこない。

今はほとんど雑木林のかげもなく広々としたぶどう山のつづいているあたりのはずだ。

冬の日のぶどう山にのぼり立つと、みはるかす寒々とした中に弥彦全村が眼下にひらける。折からの時雨にかすんで続く畑には、流木を思わせるような無雑作にまかりくねったぶどうの木が黒々と列をなして、静かに、全く静まりかえって立ちならんでいる。

秋の日に陽を受け端々しい紫色のふさをなしぶら下がっていたのは、あれはいったい何だったのだろうか、あれは幻覚だったのだろうか、と思わせるほどの苛酷さが漂っている。春はもうすぐそこまで来ているというのに。私はこんなぶどう山のたたずまいが、こよなく好きだ。

——昭和五十三年冬——

◎　◎

「絵」「文」ともに
幸田　啓（弥彦村弥彦中学校教諭）

関公連（長野）大会から

公民館の認識に差異
法改正への階段踏みしめる

ことしの関公連大会は、「社会教育法改正」への公民館関係者による意志集約をはかるための一段階を踏むためのものであった。しかし、まだ全体の論議はにつまってはおらず、統一見解を打ち出すまでにはいたらなかったようである。今後さらに全国研究大会等で充分に考究を加えなければならないことであろう。

（カット写真は長野市民会館での開会式（上）と閉会式で次回新潟大会の宣言をする石井耕一新潟県公連会長）（下）

第二十回関東甲信越静公民館大会は第二十八回長野県公民館大会と併催、さる九月五・六日の両日、長野市民会館を主会場として開催された。

参加者は、十都県から約三百名地元から約一千名、あわせて一千三百名ほど。本県からは石井会長以下十二名が参加、研究主題の①「社会教育機関である公民館に必要な行財政の確立と関係法律制度の改善」②「地域住民の生活課題に応える学習と創造活動の積極的な推進方策」について、それぞれ後町小学校、鍋屋田小学校に特設された二部会、二十三分科会に分かれての討議に加わった。

本県から参加した新潟市中央公民館長鶴巻鉄三氏は公民館運営部会の助言者、大和町公民館長の川島雅夫氏は、同司会者、県公連事務局長の本田浩氏は社会教育法部会の発表者として活躍した。このうち社会教育法改正に関する課題については、関公連大会の討議経過をふまえて、柏崎市中央公民館事務長の徳間助夫氏によって、きたる十一月十三・十四日岐阜市で開かれる全国公民館大会へ、関東甲信越静ブロックの意志として積みあげられることになっている。

二日目、全体討議では、二名の議長団が交代で進行、二名の発表者（埼玉県蕨市社会教育課長、楠谷忠洋氏、千葉県木更津市中央公民館副館長、竹内隆氏）の発表に対する質疑応答、参加者の討論があった。

最終プログラムのパネルディスカッションでは、地元公民館、青年、婦人、学校、学識経験者による意見が述べられた。このうち分館、部落館等をふくむ、自治公民館活動も公民館として位置づけようとしている、いわゆる長野方式と、本県新潟市中央公民館長鶴巻鉄三氏が展開した公教育社会教育機関としての公民館施設論がぶつかり活気があった。

閉会式では、本県石井耕一会長が、次年度新潟県の下越地区会場で第二十一回大会を開くことを力強く宣言して打ち上げた。

別稿に全体討議の確認事項を紹介した。

全体討議の確認事項

1. 社会教育法より公民館に関する事項を独立し、完全な公民館法を制定すること。
   - イ．専門委員会を設置し、法制化の条文を定めるため、十分な検討を加えること。
   - ロ．現場での討論をまきおこし、実践を理論化し、専門委員会に反映すること。
2. 公民館法のなかでもりこむこと。
   - イ．館長の常勤専任化
   - ロ．公民館主事の複数化とイ、ロを含めた教育専門職化
   - ハ．国県の財政措置の確立義務教育国庫負担法と同率以上のものであること。
   - ニ．このほかは専門委員会で早急に結論を出すこと。但し、権力の支配や干渉が加わるような法制定には反対する。
3. 市町村長に対する公振連加盟の積極的な促進

公民館は二種類ある

鶴巻鉄三

公民館という概念は、創生以来三十年を経たいまも、まだはっきりしたものではないようである。

全公連が、策定した「公民館のあるべき姿と今日的指標」には、かなり明確にその性格を打ち出そうとしている努力が認められるが、あれは活字だけの世界であったのだろうか。

関ブロ大会では、二つの主張が開陳された。そのことについて一つの主張をつらぬいた当の鶴巻氏からつぎの一文をいただいたので紹介する。

九月五・六日の関ブロ長野大会で浮彫りにしたことであるが、公民館は公立社会教育機関である公民館と住民の自主運営による自治公民館の二つがある。

自治公民館はコミュニティセンターであるという発言はいささか誇張であるが、一考してほしいところである。

信州大学の玉井康勝助教授はパネル討議で、一方は教育機関であり、片方は学習機関であると区分されたが、妥当な表現と思う。

住民のお茶の間公民館という発想は公民館の源流ではあろうが、社会情勢の激変といわれ続けてきた現在、公民館の変容も当然のことであり、公立教育機関と自治公民館の二つに分れ、それぞれ確固たる根拠をもつべきである。

さて、実態をみると、自治公民館を条例・規則にのせ、「分館」さらに「地区館」として位置づけ、一枚看板の公民館が各地に存在し、補助金（交付金）と住民の拠出金で運営しているところが多い。

館長・職員も非常勤職員の発令をもらい、二枚看板を有効に生かし、事業の企画、実施は住民自らの手でなされている。このような公民館を果して公立教育機関として、単独法のもとに認定してゆけるものかどうか、検討の余地がある。

また公立教育機関である公民館が、お役所的とかマンネリ化などといわれるようでは、論外である。住民の相互学習をいかに生かし、自治能力の向上をはかり、その結果、自治公民館がさらに立派に成果をあげてほしいものである。

図書館法・博物館法と肩を並べる公民館法でありたいし、確固たる総合社会教育機関を規定するとなると、脱落する地区館もでてくることとなりかねない。

これは言ふべきことか、悲しむべきことか、御一考願いたい。

（新潟市中央公民館長）

※ ※

灯台

県公民館大会で

本田晃堂

県大会に県知事が出席したことは意義がある。「地方首長は社会教育に無関心であり教育委員会は学校教育のための機関で、公民館は常に冷やめしを喰っている」というグチを館長の集りでよく耳にするが、館長の生き方は嘆げくことでもグチることでもない行動を起すことだ。市長や教委の諸候を引っぱり出して利用する工夫と模索と努力こそ館長に与えられた課題であると思う。次に「休日も返上して活動するという創生期における公民館魂や精神主義的なものは今日的でないから考え直すべきだ」という文部省の先生の意見には絶対異議がある。市民の組織的学習活動（スポーツを含む）は生活の余暇を利用する場合が多い、それは日曜祭日または夜間であり早朝である。これらの活動を激励援助し、求めに応じて何時どこにでも出向く公民館人であることがコミュニティづくりに果す役割りであることは言うまでもない。次に「事業が膨張し過ぎて職員に消化能力がないから資格制度を確立し専門的知識のある者を配置すべき」というお偉い先生がいたが、市民の自発的盛り上りを動機づけ促進し援助し条件整備をするのが公民館の任務だと私は心得ている。文化、産業、教育、スポーツ等のサークル活動が盛んになってどこでも付き合いきれないとすれば、それは言ふべきことだ。自ら計画したが無能な職員のため事業を消化できない公民館が県下にあるとは思われない。多用多岐の市民生活や学習要求の中で何にでも精通する知識のある職員というならば神様でも配置しなければ……。

中越公連の発想によるユニークな会場設営に感銘をうけ、市や教委職員の献身的な動きには教えられる点が大きかった。大会の中味や形について参加者の受けとめ方はそれぞれであったろうが私には素的な教材となった。（湯沢町公民館長）

公民館関係法令集

内容・教育基本法・社会教育法・社会教育施行令・公民館運営設置基準・通達「公民館基準の取り扱いについて」

A5判、34ページ

一部二五〇円送料別

公民館関係の諸会議にご使用ください。

申込先・県公連事務局

石井耕一メモ ⑫

ソ連での公民館演説

豊栄市は新潟東港に臨み、国際港都市になっているので、昨年日ソ海岸市長会に入会した。十月四日新潟港を出発し、ソ連邦ブリヤート自治共和国の首都ウラン・ウデに向う。

私は「住宅建設と都市住民の公共サービス」について基調演説をする。予めロシヤ語に翻訳し印刷配布しておくため、既に原稿を送付しておいた。

私はまずわが市を紹介する中で、福島潟とシベリヤの間を、昔から白鳥が往復し、日ソの交流をしていたこと、ここにわが国で最初に環境庁が設置した一級野鳥観測所があり、標識を付した白鳥の日ソ共同調査により、その生態が次第に明らかになりつつあることを説明する。

次いで、県都新潟市近郊の住宅都市建設に努めている実情と考え方を述べる。木造住宅は、日本の気候風土と民族性に合ったものであり、多くはソ連材である。豊富な森林資源を有するソ連からも今後も円滑な供給を受けたい、と要請する。

最後に述べるのが公民館のことである。

行政が担当するのは快適な住宅地の建設と、それに必要な都市施設の整備である。それは物理的建設であるが、さらに必要なのは精神的建設である。すなわち、その地域における人間社会を快適なものにすることである。近年強調されているコミュニティ活動の推進がそれである。

私はここでコミュニティの中心施設が公民館であることを述べ、社会教育法第二十条の規定による公民館の目的を説明する。ソ連で公民館の演説をするのはこれが最初かと思うが、どれだけわかってもらえるだろうか。（筆者は本会会長、豊栄市長）

大会参加の記 ①

テーブル囲んで

好評さくさく中越方式

さる八月二十七日、長岡市厚生会館で第三〇回県公民館大会が開催され盛会のうちに幕が閉じられた。（前月号に既報）

この大会に参加した約一千名の参加者のなかから無作意に四十名の方を選び感想文を依頼したところ、つぎのような一文がもたらされた。

ユニークな会場設営

堀　良作

暑い街中より会場の厚生会館に入って、ほっとしたのは私だけではなかったと思う。それは冷房のせいだけではないようだ。県公民館大会の標示に従ったテーブル式の会場に感じた、人間味の温かさにあったようだ。本大会主題の「住民の自治能力の向上に果す公民館の役割」の追求を徹底した会員主体の会場であったとのことだ。

記念大会にふさわしい君知事の講演、更に午後のパネル討議でのそれぞれの立場からの意見発表は、参加会員に「公民館の役割」について真剣な問題提起となった。創設期・普及期そして伸長期を迎えた公民館が、時代の推移と住民意識の変化の中でどのような役割を果していくか、次に来るであろう充実期の中味は何になるかの示唆となった。これの推進には、専門職員の設置や、法改正の要望など熱い意見があった。社会教育に対して、とかく便宜的に考えがちの中で、小千谷市長さんのご意見は力強かった。

聞く一方の会場形態から、相互の対話を期待した会場・昼食会などユニークで、大会事務局の熱意と創意に心から敬意を表する次第である。（寺泊町公民館運営委員）

喜びでいっぱい

佐藤八重子

このたび第三十回公民館大会に参加し表彰されましたことを心から喜んでおります。大会に出席できたことでさえも感激で一杯でしたのに、表彰までいただきましたことは、全く思いがけない喜びと、生涯私にとって忘れられない思い出となることでしょう。私が公民館にお世話になってはや二十年、当時のことを思うと、料理講習会には、自分の家よりお皿等色々なものを持ち出してやってきたものです。あれから幾多の苦労をのりこえて、皆さまの和と、努力で現在の公民館ができたと思います。皆んなで学び、楽しみ、それが良き家庭とつながると信じて今まで一生懸命がんばってきました。今後も大勢の皆さまと語り学び市広い人間となりたい為にも、なお一層公民館活動に参加し協力して行くのが、私の生きがいと、心にめいじました。

（新潟市公民館協議委員）

地元の反省と感想

金山　淳二

今大会の地元公民館委員の一人として反省と感想を述べます。

会場難から厚生会館大ホールだけになってしまったのは残念。大会の中心はパネル討議にあったわけだが、九百名の集まりを得ながらもう一つ盛上りに欠けたのはテーマの抽象性ばかりでなく、関係者の研究不足によるものと反省している。

また分科会の意味もあったろうが、昼食時を利用しての各食卓での懇談会、テーブルマスターを決めてのプランはすばらしかった。

だがテーブルは大きく、休憩時間中であり、大ホールの喧騒の中に二十八箇ものテーブルが並んでいては、その効果は期待ほどでなくデスクプランに終った嫌いはあるが試行錯誤と受止めて頂きたい。

しかし知事の記念講演は大成功であった。いつも学者大先生の研修会的内容であったのに比べ、今回は身近の内容で関心も強かった。テーマにも沿っていたしなおさらであった。

一番すばらしかったのは手前味噌か知れないが余興であった。次々とあれだけの人数を揃え、練習も大変だったと思われるが大きな感銘を参会者に与えたと思われる。余興を超えた公民館活動の実践発表とお考えくだされば幸い。

（長岡市公民館運営委員）

方向を見定める

河本　茂

君知事さんの記念講演から

多くの問題をはらみながらも、高速道・航路・新幹線等を契機として、日本海時代が着実に開けているのは心強い限りです。

こうした時代にふさわしい教育をどのようにお世話しなければならないのか、公民館活動に関係するものに大きな課題をお示し下さったものと思います。

見附市中央公民館の利用者団体の皆さんが、その施設等の充実のために、一体となって陳情運動をされておりますが、これは市町村の努力と相まって、どんなに公民館関係者を勇気づけることでありましょう。

この記念大会から公民館活動の方向を見定め、充実発展させる方策をみつけたいと思います。

（見附市中央公民館運営委員）

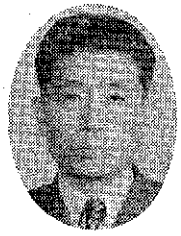
公民館活動のベテランからの訴えを聞いて

「奉仕」とは、それは公民館職員の日常の姿そのものではないでしょうか。そうしたベテランの方々が訴えられる行財政の諸問題をどのようにお世話しなければならないのか、公民館活動に関係するものに大きな課題をお示し下さったものと思います。

見附市中央公民館の利用者団体の皆さんが、その施設等の充実のために、一体となって陳情運動をされておりますが、これは市町村の努力と相まって、どんなに公民館関係者を勇気づけることでありましょう。

この記念大会から公民館活動の方向を見定め、充実発展させる方策をみつけたいと思います。

（見附市中央公民館運営委員）



力あふれる大会

松井　正敏

県公民館大会にはじめて参加し、すさまじいエネルギーに圧倒されそうになった。一人ひとりの発言が実践に裏付けられ自信にあふれたものだったからである。

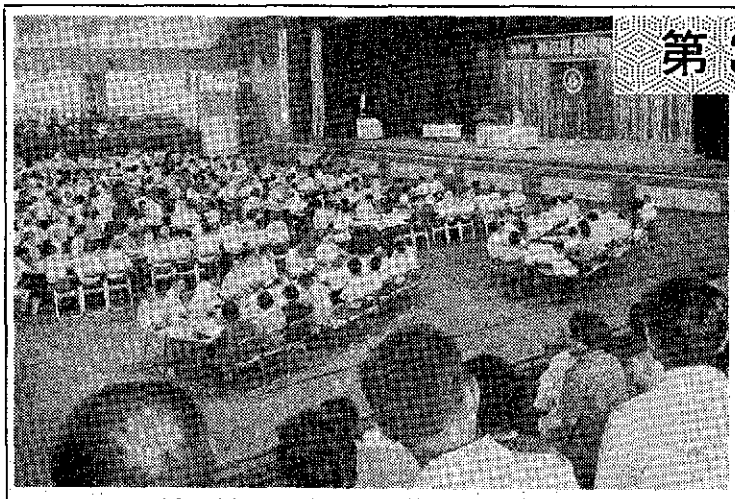
君知事さんの記念講演、自主財源の少い本県を、公共事業を多くすることによってすばらしい県にしていく努力を数字を挙げて説明された。新幹線と高速道路網の完成によって、すばらしい明日があると力説され、県政に対して強い自信をおもちになられていることがよく理解された。

アトラクションに出演された婦人学級のお母さん方、日ごろの学習の成果をいつ絶えるともなく披露された。練習をよく積まれていることが指先にも表われていた。

パネルデスカッションでも、現場のきまざまの問題を克服して、すばらしい実践をなされた方の発言に、時に励まされ、また反省をさせられた。自分自身もっと社会教育に対し熱意をもたなければならないと。そして職員の専門職化こそ課題であることがわかった。

（十日町市市東下組分館長）

第30回県公民館



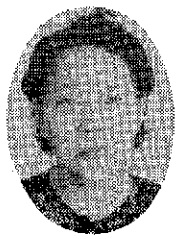
（広い会場いっぱいにテーブルといすが並ぶ）

地域住民のかけ橋

保坂テル

まづ石井会長の力強いごあいさつに初まり、本年は三十回大会にあたり優良公民館、非常勤公民館職員の盛大な表彰式が挙行されました。ご来賓の新潟県知事議会議長の御祝辞も戴きました。次に本年のテーマ「住民の自治能力の向上に果す公民館の役割は何か」司会者に新潟日報論説委員長沼甲子男殿、俵谷正樹、星野行男、伊藤茂治、丸山サワ、増井悌三郎諸先生のパネルマンが構成されて一人二十五分以内で発言されました。五人の先生のおことばには深く感激いたしましたが紙面の都合で書くことができません。増井先生のことばの中に「やかた」について看板公民館そして青空公民館といわれた昭和二十年代のころと鉄筋四階建エレベーター、冷暖房付の独立館が建てられている今日、三十年間の思い出を語られ感慨無量でした。次に「おもてでてんで終ってはならない」「堂々たる公民館への課題」施設、職員事業の充実した盛大さを誇りうるものでなければならないと強調。この大会の成果が必ず地域住民の末端まで浸透するよう願ってやみません。

（上越市公民館運営委員）



工夫された会場

永見豊太郎

一九八〇年代へ向けての意気込みの場でもある公民館大会は、会場設営に工夫がみられ座席に祝県公民館大会と配置してくださったことは、入場した時から気分がよかった。私は社会教育委員、公民館運営委員としてまだ十年で未熟なだけに各種大会、研修会に参加して広く皆さんの意見や、施策を聞かせて戴くよう心がけている。問口が広く奥行きの長い社会教育、公民館活動に今回の各立場の先生方のパネルデスカッションは意義深かった。むずかしいことだが住民が望んでいる事を見い出し、住民の資質の向上を図らなければならない。それとともに地方自治体の行政を研修し理解・改善するよう常に心がけなければならない、さらに地域住民としての連帯意識を高めるよう努めることが最近の共通課題の一つでもあろう。私たちの町は社会教育施策の方針として「健康で明るく豊かな生きがいのある町づくり」を基調に努力をしていますが、参考になる点がいくつかあり大会関係者の労苦に感謝申し上げます。

（小国町社会教育委員長）

原点に返った活動を

大野 昭二

これまでの公民館活動は地域づくりやコミュニティ活動に結びつくものは比較的少なく、学習、講座、スポーツ等を中心とした事業が主体であった。しかしながら高度経済成長時代の終えん、資源有限時代の到来など急激な社会の変化にともない住民要求も変化して来ている。

このような時に本大会の主題であった「住民の自治能力の向上に果す役割」というテーマーに対して四人の諸先生方が各々の立場で意見発表をされたとうり、これからの公民館活動が互いに連携を保ち地域の生活課題を取りあげ、心豊かな住民の意志交流が容易にできる地域づくりや地域の連帯性を高める方向で活動を展開する必要がある。また地域における自治組織の確立が急務であるし、コミュニティ活動推進の中核である公民館はあらゆる活動をコミュニティの観点からとらえ意識づくり、組織づくり、計画づくりを推進して行くことこそ今後の公民館活動の大きな役割であろう。

（新井市公民館長補佐）

プログラムに一考を

笹川 敏夫

公民館大会が多くの人の動員とあれだけのエネルギーを使って求めるものは何かを考える時、プログラムの編成について一考の必要があると思う。一日限りの日程の中で最も重点とする場面をどの時間帯に据えるか。このことが重要なポイントだと思う。このたびのパネル討議は大会の中の最も中心的なものであろう。多くの参加者による集中的な成果を期待するにはどの時間帯がよいか、もっと検討されなければならなかったと思う。

次にパネル討議そのものについてもあれだけの大会場で全員を集めて進行することは無理ではなかろうか。少くともいくつかの分科会をもつべきでなかったか。形式に流れ多くの意見をくみとれない感じがする。開会式、表彰式、記念講演はもっと時間をきりつめて内容豊かなものにして、参加者が心から来てよかったと思う大会にしてほしかった。

（三和村公民館長）

これからの活動に期待

田辺 敬吾

第三十回県公民館大会が「住民の自治能力の向上に果たす公民館の役割」の主題のもとに長岡市厚生会館で開会された。開会式、表彰式のあと者県知事の講演が「これからの新潟県」の活題のもとに一時間行われた。印象に残ったものは八年前と現在の新潟県の姿の比較、県における公共事業の現況過密過疎における問題点のむずかしさ等であった。

午後パネル討議に入った。五人の問題提起者より、それぞれの立場で住民の自治の向上それを果たす公民館の役割について、いろいろの角度から問題を提起しそれに対する活発の質疑がなされた。それらの問題点疑問点を聞き、わが市における公民館のうごきを考えて見た。私どもの市には中央公民館を主幹として四つの地区の公民館分館があり、中央公民館と連携をとりつつその地区独自の活動を各分館担当の主事が地区の住民の中にとけこんで、わりとフリーな分館活動を進めている。老人もまた若者も公民館に社会教育問題をもってなだれこむ日を望みつつ、その日の近き日を信じその専門職員も運営委員も一生懸命分館独自の公民館行事を考えている。その勉強の意味からも本大会の参加は非常に有意義であった。

（豊栄市公民館運営委員）

× × ×

第30回県公民館大会参加記②

堂々たる公民館に
パネル討議に力づけられる

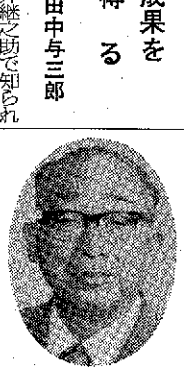
県内各地より参加された方々で会場はうずまき、長岡のママさんコーラスグループの爽やかな声で、公民館の歌が合唱され会が始まりました。午前中の行事と講演がとどこおりなく終り、ほっと一息という時、太鼓と踊りのみごとなアトラクションが披露されました。午後はパネルディスカッション、「住民の自治能力の向上に果す公民館の役割」、という題で日ごろ公民館と深いかかわりをもたれている五人の方がそれぞれ違う立場から意見を述べられました。この意見発表を聞きまして私は深い反省をおぼえずにはおられませんでした。

今までは利用することのみで、そこで得た知識や教養をどのように還元するかとか、地域の公民館に対する意識をどう高めていったらよいか等、考えたこともなかった私です。数々の心に残る言葉に接しました時、あらためてこれからの公民館活動のあり方を考えたしだいです。

（分水町公民館運営委員）

大きな成果を得る

田中与三郎

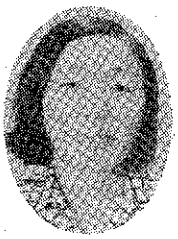


戊辰の英傑河井継之助で知られる長岡城趾の大会場は、知識経験豊かなパネルマンの陣容で、それぞれの者場から貴重な意見の発表があって感銘するところが多かった。長沼先生の住民と行政の谷間に置き去りにされつつある公民館は、尊い苦言として冷厳に受けとめなければならない。俵谷先生からの自治能力のこと、名実ともに整った公民館の運営をされてる伊藤先生、山間の地にあって使命達成に努力されている丸山先生のご意見も立派であった。増井先生には常に教えられることが多く今回の堂々たる公民館を考える時、三十余年運営委員として参画してきた私どもはまだご期待に添うことができず赤面のいたりであった。行政の首長として星野先生のキメ細やかな理解あるご意見を拝聴して心強さを感じた。地方化の時代コミュニティの問題等、住民の連帯意識の昂揚も行政担当者の財政的に人的に深い理解があってこそであり、堂々たる公民館を築く根源となることは申すまでもない。星野市長のご発表は今後公民館に対する指針として大きく期待されるものであった。ともかく大きな成果を得た今大会の主催者に心から感謝を申し上げる。

（川西町公民館運営委員）

利用する側の反省

解良　明子



行政へ働きかけよ

小川　清司

長岡の一般市民の方が多数聴にみえられていたことについては社会教育に対する一般市民の関心の深さを示すものとして感心させられました。さて今大会のテーマ「住民の自治能力に果す公民館の役割」でしたが私たちが長年推進してきた公民館活動が地方自治の振興に重要な役割を果していることを改めて思い知らされました。

感銘した理事者の話

金子　泰夫

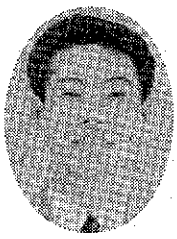
公民館が発足してから今年で三十年、県大会も三十回というので大きく期待して参加した。大会の主題も「住民の自治能力に果す公民館の役割」主催者も苦労して決定したことであろう。本大会が果して主題に添い得た大会であったろうか。また各市町村公民館が日ごろの活動と主題が一致しているであろうか。各先生方の話を聞いて特に反省させられるものが多かった。大会の意義は参加をして日ごろの活動を反省する機会を与えただけでも意義が大きいと思う。

ある社教雑誌に公民館主事から町長になった人が「町長になったら日頃考えてきた公民館費より住民の希望する土木、産業の方へ多くの予算をふり向けてしまう。公民館活動は人間形成に一番大事の場である。もっと公民館活動に力を入れなければならない」と反省されて結んでおられたのを読んで強く感動した。大会に参加して小千谷市長の星野先生の話をききこうした理事者をもつ住民は幸せだと感じました。

（妙高高原町非常勤主事）

意義深い一日

小池　信栄



しかしそれとは裏腹に一部の市町村を除いて各自治体が社会教育にかける行政のウエートや理解がまだまだ欠けており、人員や施設の不足に悩まされています。根本には国における社会教育に対する取り組み、とりわけ法的な整備が進んでいないことが指摘されていますが、今後もその法制化を国に対してねばり強く続ける必要を痛感しました。パネル討議のテーマを消化するには時間が少なく、せっかくの良い意見も空まわりの感じでした。今後は、パネラーとフロアーの討議時間をもっと多くとるようにしてほしいと思いました。

今回の大会の総体的な印象は国や自治体の首長に社会教育の重要さを理解させ公民館専門職員の必置制をはかり、学校教育に少しでも近ずける努力を私たちが先頭に立って続けて行く必要があることを感じました。

（妙高高原町非常勤主事）

発展への熱心さ

阪西トシイ

私はこの大会の参加ははじめてのことです。美しく作られた会場とあまりに多い参加者に圧倒されました。県知事の記念講演「これからの新潟県」の中での豪雪問題やエネルギー問題は、事実自分の身近の問題であるので大変ためになる講演でした。中食のアトラクションは、悠久太鼓や数々の民謡はすばらしいものでした。午後パネル討議開始、テーマ（住民の自治能力の向上に果す公民館の役割）社会教育、伝統的郷土の文化。農業問題。行政と住民を結ぶパイプ役。公民館はおもて御殿で終るな、パネルマンの方々の活動内容の積極的な指導の中で、公民館の重要な役割を今もって私の胸をうちました。話も側も、聞く側も公民館を発展させるための熱心さには感動しました。これからも希望をもち地域住民の協力や理解を得、また公民館にたずさわる方々の指導を受けながら、私なりに一生けんめい公民館活動を、つづけて行きたいと思います。

（堀之内町公民館運営委員）

うらやましく思った。現場で活動している関川村の伊藤先生、松之山の丸山先生や他の先生方の話をきき日ごろの活動を反省させられた意義ある一日であった。

（下田村公民館運営委員長）

まず第一印象は日ごろ皆さまが、本当にご苦労されて公民館活動と真剣に取り組んでおられる姿に、思わず気持が引き締る思いがしました。また、大会のテーマが公民館職員として何かを学ばなければと思っているときでしたので、大変有意義で参考となりました。また地域住民の皆さんが、公民館活動に対して、いかに期待しているかが、痛切に感じられました。この大会を契に、地域住民の意識の変化を図りながら、思い切った発想の転換により、今日の社会情勢に適した新しい公民館づくりに全力をつくします。

（栃尾市公民館主事）

随想

晩夏二題

佐藤平次

一 米のこと

つい近年まで、まぼろしの米とさえ言われていたコシヒカリが、今年度はついに作付面積において県下第一位を占めたという。従って出荷量も想定数が見込まれるであろう。

コシヒカリが県の奨励品種に指定されてから既に二十数年、笛吹けど一向に踊らず、指導者をやきもきさせ、一時期などは、農家の自家用と親類へのお裾わけ程度の低調をかこった事さえあったが、今や良質米のチャンピオンとして、全国的に名声を博するに至った。特に新潟のコシヒカリは最も高価格で取引きされるという、まさに時代の寵児の感すらある。

「雌伏十年」という言葉があるが実に二十年間も低迷していた品種が、米の過剰、自主流制度の恩恵等、いろいろ要素はあるにせよ、一躍脚光を浴びてトップの座にのしあがったということは、まさに奇蹟に近い。

もっとも、食味の良好なこと、風に自他共に認めるところであったし、まぼろしの米と言われた頃は貴重品的価値さえあった。しかし、農家の側からみると、実に作りづらい品種でもあった。稈長で倒伏しやすく、熟期が遅くて収量も割と少ないなどの欠点が目についたからである。だからといって米作農家をとりまく情勢は厳しい、そんな甘ったれは許されなくなった。作りづらくても、収量が少なくても、とにかく高く売れる米を作らねばならぬ。減反を強いられた上に米価は据置き、この苛酷な仕打ちに耐えるには、何んとしても対応策は良質米の生産あるのみ、おそらく来年も来年も、まだまだコシヒカリの作付と出荷量は伸びつづけるだろう。そして、コシヒカリ自身は、長い長い下積み生活を振りかえって「ざまあみやがれ」と、わが世の春を謳歌することであろう。

二 水のこと

今日の社会生活に水と電気は不可欠である、電気は文明がもたらした偉大な産物であろうが、水は古代より悠久不変の恩恵を生物に与えている。ここ数年来大都市などでは盛んに節水が叫ばれているが、その消費量も膨大なものらしい。文明の利器といってしまえばそれまでだが、上水道、簡易水道を問わず蛇口をひねれば、いとも簡単に水が出る。労力を使わずして安直に欲望を満たすことができるから、水の有難みが薄りにくい。

農村地帯は二、三十年前は手掘り井戸であったから、晩夏から初秋にかけて水位がさがるので、各家庭では水を大切にした記憶がある。風呂などは天抵川の水を汲みそれも晴日ごとに「あっため湯」といって、前日使った湯に新しい水を足して沸かす、水と燃料の節約である。食器なども毎日洗わない、各人に箸箱というのがあって、お湯を呑んでそのままにしまう、今から思うと不衛生のことを平気でやっていたが、その頃はそれが普通であった、それ程、水は貴重なものであった。

古老の話によれば私の町内の耕地は、昭和八年に耕地整理が完成するまで、江を持たぬ耕地であって、僅かに福満から鍬の幅の江を分けてもらって灌漑していたが、旱天が続くと水不足になって田植も出来ぬ状態が続いたとか。また年によっては折角田植はしたが、その後の晴天続きで稲が枯死寸前まで追いやられ、たまりかねて南蒲下田郷の青ケ平という部落にある池の水を樋に入れてもらって来て、簑笠つけて太鼓を打ち鳴らし、田んぼを廻って歩くと、不思議にも程なく一天にわかにかき曇り、恵みの雨が降ったそうだ。

もう世平紀も前の話だが、その青ケ平は過疎の波にのまれて廃村となり、一方、私共の耕地は信濃川からの取水によって豊富な水量の恩恵に浴している。

文明の発達とともに、水一つとっても五十年という歳月は、幾多の喜悲哀歓を秘めながら推移してゆく。石油をはじめとするエネルギー問題がやかましい昨今、資源の大切なことをもう一度見直してもよいと思う。

「館報〝ふくと〟より」

第一回大会について

間野良知

大会要項記載の県公民館大会のあしどりを読んで、「二十五年五月県内公民館長協議会をもって、第一回公民館大会としたのではないかと思われる」という表現がいささか気にかかった。

当時幹事として企画、運営に参画した私の記録によると、県公連の会則が審議決定されたのは確かに五月二日の前出協議会であるが、事実上の結成総会は同年六月二十四日長岡市公民館で開かれた県下公民館長協議会で、議事終了後緊急動議により県公民館大会の名に切換え、文部省、県当局等へ提出する宣言、決議がなされた際である。先ともあれ第三十回を迎えた記念すべき本大会が、一千名の参会者を得て大成功裡に終了したことを心から喜ぶものである。

（小須戸町中央公民館長）

◎

かれた県公連議員連会であり、役員の選任、事務局、予算等重要事項が決定されている。どちらを第一回大会とするかを更に検討決定されて、今後疑問符的な表現を改められないものだろうか。なお県公民館大会の名を最初に用いたのは、翌二十六年六月五日柏崎公民館で開かれた県下公民館長協議会で、議事終

◎

良寛記忘館を見て

山口普作

良寛記念館に到着した時は、すでに十時を回っていた。建物は小高い丘の上にあって、出雲崎の町を一望に眺めることができる。眼下には良寛堂、銀波に浮ぶ「おけさ」の佐渡ケ島が見える。白いモダンな建物の入口に立つやいなや、案内係のおじいさんが口角泡をとばし一気にしゃべる様子はまさに講談の「馬琴」的風情である。まことにスーパーじいさんで、顔も良寛に似ている。

日につくのが入口の立像である。あの細い清楚な線の幅に命あるものをことごとく寒した人柄が脈々と流れ、自分を律した自然の表情が感じられた。遺墨、遺品は良寛の生涯を浮きぼりにするように表わし見る人を嘆賞の渦に入れる。しかし私はその偉大な遺墨の前に立っても残念ながら浅学の悲しさゆえに鑑賞する能力を持たなく、割り切れない思いであった。ただなんのてらいもない純粋な線の運びの美しさに胸のつかえがおりる思いがし、館全体に良寛の愛情と純粋さがみなぎっていた。

出雲崎は海岸線に沿って細長く一様に戦前の長岡に似て昔金鉱輸送で栄えた町の名残りをとどめ、今は車のUターンをする場所さえないくらいの道路のせまさであった。

世の中は人間既外の社会といわれる。物質的には恵まれていても逆に人の心の美しさ、喜こび、素朴な日本人の心が失われていくような思いがしてならない。はては法の番人をする人間までがその利権に病れ、次から次へその疑獄行為が後を断たない。そんな高官や役人に良寛の爪の垢でも煎じて飲ませてやりたい国や国民を思う心に何の派閥が必要なのか。良寛はそんな因襲を超越し偽わらぬ生活を民衆の前に示し無欲、無一文の中から幾多の芸術を残し無言の中に人間的価値を教えてくれた。この良寛史跡ハイクを通じ心の充実を感ずるとともに現世の人間にもっと美しい心と素朴さがあってもいいのではないだろうかと思った。

（長岡市中央公民館 管理員）

あの頃のこと

トントキクラブ (1)

樋口弘雄

公民館を去って十二年、すっかりご無沙汰しているので、この原稿は、罪ほろぼしの一つだと思って書きました。明治生れのくせに、ボーイスカウトといっしょに飛び回り、ユースホステル（自宅）に訪れる大勢の学生、青年と語りあかし、まだまだ……と自負しながらも、いざペンをとると、昔が懐かしい。これも老境に入ったということなのでしょうか。

――公民館創設時代――

終戦の混迷まだ覚めやらぬ田舎の村にまで、公民館の設置や、その活動の通達がきたのは、昭和二十四年だったと思う。その当時私は峰岡村の助役をしていた。指令通り？　館の設置には役場を当て、館長は助役の兼任で、一応形をつくろった。

新らしく組織も、機構も、制度も変ろうとしている秋であった。

公民館という言葉には、なじめなかったが、その内容や、活動の方向が判ってくるにつれ、これなら、やれると思っていた。それは、私が非戦闘員として中国にいて、宣撫班の活動や行政顧問として、いくつかの県で新らしい教育や行政を生み出す仕事に従事していたこと。世界の歴史が示すように、負けた国は、その国の文化が中断して、勝った国の文化や指示で動いて行くことを、いろいろな文献や直接外地生活で知っていたからだった。

樋口弘雄氏は、現巻町の収入役。旧峰岡村助役時代から公民館の育成に情熱を打ち込み、巻町合併後は、同町の専任館長として活躍県内公民館界に数少ない常勤専任公民館長として知られ、県公連理事としても重きをなしていた。

わけても「トントキ（そこつものの意）クラブ」会長として、同クラブ会員とともに幾多のエピソードを残していることは著名。

ところが、本館である役場は、公民館の看板は掲げたものの、角田や間瀬の浜から魚をもってくる女の人達が、民家と間違えて魚を売りに来るやら、彼岸には尼さんが託鉢に来る。オンボロ役場で、どうひいきめに見ても、新生日本の一翼を担う文化施設とは見えない建物であった。

峰岡村の地形は、角田山の山麓と、平坦地に居住する十四の部落から成っていた。そこに生活する人達を対象とする教育は、指示された要項の中にある分館であり、オンボロ本館はそのままにして、分館の設置を力説し続けた。

終戦直後、すでに村に文化会を作ったり、村の子供会を指導していたので、部落の集会場の必要を痛感していたから、親達も地域も別な角度で、分館の設置には共鳴もしてくれ、協力もしてくれた。一五〇戸の私の部落で、県下でいちはやく独立分館が誕生した。衣替えした青年団も、婦人会も新らしいものにとびつく当時の傾向として、こっちに多少のミスがあっても、自信のない諸計画であってもやり通せた。

戦争中の中国の農民相手に、また英国や米国の教育を受けた都市のインテリ青年婦人を相打に、無の中からこれを組織化し、指導のレールに乗せてきた五カ年の経験が私にとって、自分の村でこれほど役立つとは思っていなかった。

戦前からあった村の公会堂が、分館になり、森林組合の二階が改装されて分館になり、山の中の分校の教室が分館になり、新築の分館も三館できた。

今見ると、紙質の悪い図書はその頃の分館図書として買い入れたものだった。リヤカーでなければ運べない、でっかい反射幻灯機も借りて使用した。討論会や文化講演会にもよく集った。聴いたり見たりの吸収教育が主で、学習形態は、それから後に出てきた姿だった。この公民館の活動だけが、住民を覚めさせたわけではない。行政も、農政も、特にこの地域では保健所の指導もすばらしかった。

私事にわたるが、今のユースホステル制度に先駆けて県に働きかけは、「新潟県青少年野外活動宿舎」を作り、その宿舎も引き受けた。

自転車のタイヤの唸えない頃、青年の人達とサイクリングしたり、ラジオやテレビで人気を博した「二十の扉」を、その数年前から子供会に指導したり、テントのない終戦直後、子供達をつれて浜岸にキャンプに行ったり（用具は鋳掛けのあとだらけの鍋や釜、馬車にかけるシート、ゴザ）いろいろと思い出は多い。

子供もリーダー手帳

のびっ子大将

子ども会を子ども自身の手で計画し、運営し、記録し、そして次の年代へ継承し、また、子ども自身がリーダーとしての自覚と、責任感を養うことをねらいとしています。

文章は、小学５年生を対象とし、むずかしい漢字にはふりがなをつけ、活字も大きく読みやすく、そして全頁にイラストを入れ、子どもたちが理解しやすいようにしています。

編　集／全国青少年育成協議会
スタッフ／吉田　稔・広井　好男
　　山下　誠・成田アキラ
Ｂ６判　96頁　表紙／カラー４色
本文色刷（全頁にイラスト入り）
価格／480円（〒160円）
特価／300円（50冊以上）

主な内容

- 児童憲章（前文）
- 子ども会とは
- 子ども会のしくみ
  - 班、係のこと
- リーダーの役割と心得
- Jrリーダー、育成者とのかかわり
- 話し合いのすすめ方
- プログラム、計画のたて方
- 活動のあれこれ
  - 野外活動について
  - 室内活動について
  - 応急手当について
  - 緊急時の連絡方法
- 集団行動で注意すること
  - 登、下校のとき
  - 集合のとき
  - 集団移動のとき
- 社会活動のなかで
  - ボランティア活動など
- 楽しい子ども会をつくるために
- 12ヶ月のこよみ
- 行事予定表
- 今月の手づくりの遊び
- 活動日誌
- 班員名簿

申込みは県公連事務局へ

あとがき

石井耕一豊栄市長（本会会長）は、日ソ裕岸市長会代表団の一員として、さる十月四日、新潟空港からソ連へ向けて旅立ちました。ウラン・ウデで開かれる会議では「公民館」のことも演説されるとのこと（本号三面石井耕一メモ参照）、公民館の文化市長の面目躍如というところです。

追って、むこうでのおみやげ話もご紹介できると思います。ご期待ください。

本号「県大会参加者の記」特集としました。